

環境公共への取組を通じたWCS・SGSの生産

～生産と加工、畜産利用の分業システムの構築～

【概要】

ビオトープとの共生を図りながら環境に配慮した生産体制を整備するとともに、平成25年から約100haのほ場で乾田直播による飼料用米を作付けし、ホールクロップサイレージ（WCS）及びソフトグレインサイレージ（SGS）を生産している。

【対象名】

農事組合法人
フラップあぐり
北三沢
(14名)

【背景・課題】

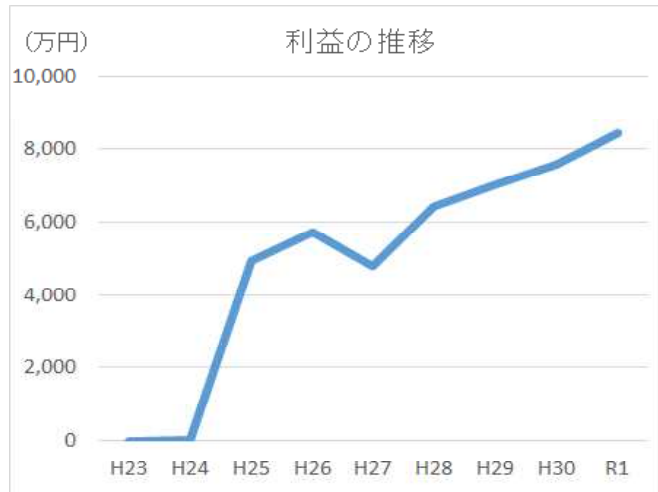
- ・当地区はヤマセ常襲地帯で水稻の単収が低く、低湿地帯のため野菜栽培に不適で、耕作放棄地が増加していた。
- ・地域農業の存続のために農地を集積し、効率的に営農していく必要があった。
- ・ほ場がラムサール条約登録湿地仏沼特別保護区のすぐ西側に位置していることから、環境に配慮したほ場の整備と営農を実施する必要があった。



SGSの収穫

【取組の内容】

- ・絶滅危惧種オオセッカの繁殖期に配慮したほ場整備と営農を実施している。
- ・国の飼料用米の増産に関する施策に沿って飼料用米の生産を開始し、育苗コスト低減のため、直播栽培で取り組むこととした。
- ・土地改良費を負担する代わりに借地料は無料とし、20年間の借地契約を締結、農地を集積した。
- ・WCSとSGSは、運搬や加工について、販売先の地元畜産農家で実施することを条件に低価格で販売し、飼料の地域内自給を向上させた。また、畜産農家から堆肥を供給してもらい、耕畜連携による資源循環にも取り組んでいる。



【成果（収益性アップ）】

- ・平成26年の作付面積約90haから、令和元年には約110haに拡大した。
- ・は種作業の前進を図ったことと、ほ場整備の進行に伴う農地集積・規模拡大により、令和元年度には84,363千円の剰余金を得ることができ、従事分として組合員に配当したほか、農業経営基盤強化準備金として留保している。